

# ASAKURA

小中高生のための

# 税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第65号

令和7年  
12月

第18回(令和7年度) 小学生の税に関する絵はがきコンクール  
最優秀作品(甘木朝倉法人会会長賞)

☆☆☆

☆☆☆



甘木朝倉法人会会長賞



大福小学校 6年 井上 紗那 さん

## 高校生の優秀作文

### ★甘木税務署長賞

「ありがとうでつなぐ税の未来」

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 原田 夏帆

### ★福岡県久留米県税事務所長賞

「未来を支えるために」

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 田辺 夏憐

「税金のおかげで。」

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 古本 瑛菜

### ★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「税と政治」

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 小銭 蓉芽

### ★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

「増税の理由」

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 坂田 楓夏

### ★朝倉市長賞

「教育と税金——未来への投資——」

福岡県立 朝倉光陽高等学校  
一年 佐藤 菜七美

## 中学生の優秀作文

### ★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

「点滴」

筑前町立 夜須中学校  
三年 福村 天水珠

### ★甘木税務署長賞

「笑顔を増やすために」

筑前町立 夜須中学校  
三年 北島 まりい

「私たちの暮らしと税金」

東峰村立 東峰学園（中等部）  
三年 坂本 綾香

### ★福岡県久留米県税事務所長賞

「僕が成長できた場所は税金で守られている」

朝倉市立 南陵中学校  
三年 柴田 篤

### ★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

「税金を支える暮らし」

朝倉市立 比良松中学校  
二年 西川 優佑

### ★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

「自動販売機と税金」

朝倉市立 比良松中学校  
二年 原田 純志

### ★朝倉市長賞

「命を支える税金。」

朝倉市立 甘木中学校  
三年 平塚 小夜子

### ★筑前町長賞

「税金の大切さについて」

筑前町立 三輪中学校  
三年 坂本 寿仁

### ★東峰村長賞

「必要な税」

東峰村立 東峰学園（中等部）  
三年 植田 舞



#### \* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、二四二編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

#### \* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、六八一編の応募があり、その中から九編の作品が入選しました。

# 高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 原田 夏帆

## 「ありがとう」でつなぐ税の未来

「税金って、なんのためにあるのだろう。」

少し前の私はあまり分かっていなかった。お金の話はなんとなく難しく、ニュースで聞く「税金の無駄づかい」といった言葉から、正直あまりいいイメージがなかった。でも、学校の授業で税金の仕組みについて学んだとき、私の中で考え方が大きく変わった。

税金は、国や地域が集めて、みんなの暮らしを良くするために使われている。道路の整備や福祉など、その使い道はとても広く、私たちの生活のすぐそばにあることに気づいた。学校の設備や教科書、先生たちの給料

にまで税金が使われていると知って、自分の今の学びも社会に支えられているのだと初めて実感することができた。最近では、タブレット端末や電子黒板が学校に導入され、授業がどんどんデジタル化している。こうした、新しい学びの形を支えるのも税金の力。私たちは気付かないうちに、たくさんの「ありがとう」に囲まれて生活しているのだと思う。それは誰かが親切にしてくれたときの「ありがとう」とは少し違うけれど、誰かに感謝の気持ちを感じるべきものだと思った。さらに、税金は今のただでなく未来のためにも使われている。例えば、

災害に備えるための防災設備や訓練、少子高齢化に対応する社会保障制度など、私たちが大人になってから必要になるものにも多くの税金が使われている。つまり、今税金を払っている大人たちは、自分たちのためではなく私たち若い世代のためにも「ありがとう」を届けてくれている。そんなつながりがあることを知ってから、私は税金を「未来へのプレゼント」のように感じるようになった。そしていつか、自分が働いて税金を納める立場になったときには、そのプレゼントを次の世代につなげていきたいと思う。

税金は「ただの義務」でも「た

だ払うもの」でもない。税金は、未来を守る「ありがとう」の形だと思う。私が通う学校、安心して渡れる横断歩道、災害時にすぐに動いてくれる人たち。そのすべてに、私たちの小さな「ありがとう」が込められている。そして私たちが税に「ありがとう」を込めたとき、そこから未来への希望が生まれる。感謝がつなぐ税の未来にはきつと笑顔があふれているだろう。

私が将来働くようになったら、しっかりと税金を納めたい。それは、自分が受け取ってきた「ありがとう」というプレゼントを、次の誰かに渡す方法だから。

## ★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 田辺 夏憐

## 「未来を支えるために」

「税金」と聞くと、大人の話を聞いて、自分にはまだ関係のないことだと感じる学生

も多いと思う。私も以前はそうだったが、学校の授業やニュースを通して税について

学ぶうちに、若者だからこそ知っておくべき大切なテーマだと感じるようになった。

税金は、国や地方自治体が社会を運営するために必要な費用を、国民から公平に集める仕組みである。道路や学校、病院、消防、福祉など、私たちが安心して生活するための多くの場面で税金が使われている。例えば、私に通っている公立高校でも、教科書の無償配布やエアコンの設置、先生の人件費など、さまざまな場面で税の恩恵を受けている。

けれど、私たち若者がそのことに気付く機会がまだまだ少ないのが現実だ。税金は「取られるだけのもの」、「使い道がわからない」と感じる人が多いのも無理はない。しかし本来、税金とは「取られるもの」ではなく、「支え合うための仕組み」である。誰かの暮らしを守り、社会全体をよりよくするために、みんなですしずつ負担し合っているの

だ。

少子高齢化が進む中で、今後ますます若い世代が担う役割は大きくなる。税の負担が重くなるかもしれないという不安もあるがそれを悲観するのではなく、どうすれば税金がもっと有効に使われるかを考え、「自分も社会づくりに参加している」と前向きに考えることが大切だと思う。

最近では、高校でも主権者教育が行われるようになり、政治や税金について考える機会が増えてきた。税金の使い道は、選挙で選ばれた議員たちによって決められている。つまり、私たちが選挙に参加することで、税金の使い方も意見を反映できる。十八歳になったら投票できるようになるからこそ、今のうちから税について学び、自分の意見を持っておくことはとても重要だ。

私は将来、社会人として働き、税金を納める立場になる。そのとき、ただなんとなく納

めるのではなく、「自分が社会の一部を支えている」という実感を持てるようになりたい。そのためには、今から社会や税の仕組みに関心を持ち、情報を正しく知る姿勢を身につけておく必要がある。

税金は未来の社会を形づくる土台である。そして、私たち若者はその未来を生きっていく世代だ。だからこそ、今「税とどう向き合うか」を考えることが、自分たちの未来をつくる第一歩になると思う。

## ★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 古本 瑛菜

### 「税金のおかげで。」

私は、高校生になって初めて「教科書が有償である」という現実直面した。小中学生の頃は進級すると、新しい教科書が無償で貰えることが当たり前だと思っていた。しかし、高校へ入学すると同時に必要な教科書を購入しなければいけないこと、そしてその金額の大きさに驚いた。そこで、小中学生の頃に使っていた教科書が無償で配られていたことへのありがたさを強く感じる事ができた。

小中学生の教科書無償給与制度は、税金のおかげで成り立っている。もしこの制度が無ければ、経済的な理由で教科書が買えずに義務教育の九年間すらまともに通えない人がいたかもしれない、平等に勉強する機会が与えられていなかったかもしれないと考え、教科書無償給与制度がある日本はとても恵まれた国だと思う。世界にはアメリカや中国など教科書が有償またはレンタルでしか使えず、勉

強をあきらめざるを得ない国も残念ながら存在する。教育はすべての子どもに等しく与えられるべきである。そうした現実を知ると、教育の平等が実現できている日本の制度の素晴らしさと、それを支えている税の大切さを改めて感じる事ができた。

それなのに中学生の頃の私は、雑に扱ってしまい表紙やページが折れ曲がったりしている教科書があった。その行動は、税金を大切にするとどころか無駄にしてしまっていたことに今さらながら気がついた。高校の教科書代は、年間約五、六万円。お金を払って手に入れたものだからこそ、一冊一冊を大切にし、きれいな状態で使い続けたいと心に決めた。

私はこの経験を通して、「税金はただとられるもの」ではなく、「私たちのために必要な大切なもの」という考え方に変わった。だからこそ、これからの小中学生に伝えたい

ことは一つだけ。それは、教科書が無償であり、誰もが勉強する機会があることを当たり前だと思わず、一生懸命勉強し、教科書を大切にしたいということだ。この教科書には、働いて税を納めている親や多くの人からの願いや思いが詰まっている。私も将来社会に出た時には税を納める側になる。今までたくさんお世話になった分、次は私が税で多くの人を支えられる人になりたい。教科書無償以外にも税は多くの場面で私たちを支えてくれている。それに気づき、感謝の気持ちを持ち続けたいし、税の大切さを伝えていける人でありたいと思った。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 小銭 蓉芽

「税と政治」

二〇一九年一〇月。軽減税率対象物以外の品目に一〇パーセントの消費税が付いた。当時私は小学四年生であり、長らくテレビで報じられていた「消費税引き上げ」というニュースには全く関心が湧かなかつた記憶がある。だが、最近選挙のニュースに耳を傾けると、「消費税を五パーセントに」、「消費税廃止に向け：」というような各政党による消費税に関する演説が聞こえてくるものが多くなつた。これらのことを受け、なぜ消費税が引き上がったのか、何のために消費税があるのか気になった私は、高校一年生になり初めて消費税について調べた。

まず調べて驚いたことは、私が生まれた二〇〇九年の頃

の消費税が五パーセントだったことだ。詳しく調べてみると、消費税が付き始めたのは今から三十六年前の一九八九年であり、当時は三パーセントだったそうだった。そこで私は、なぜ消費税が引き上がったのか調べてみた。財務省によると、安定的な財源を確保し、社会保障制度を次世代に引き継ぎ、全世代型に転換する必要があるため、つまり、子育てや医療、介護や年金などの社会保障費を賄うための安定した財源が必要だから、という理由で消費税が引き上がったそうだった。特に近年、少子高齢化が進んでいるため社会保障費が増加し、多くの借金に頼っている状態が続いてしまっている。そのままでは私たち子どもなどの将来世代

に負担がかかってしまう。ここで一つ疑問が生まれた。こんな厳しい状況の中、なぜいくつかの政党は消費税を引き下げようと、もしくは廃止しようとしているのだろうか。

調べて一番最初に目に入ったのは、「物価高対策」という言葉。今、日本は物価高騰により様々な経済的負担に苦しめられている。この問題の対策方法の一つとして減税または廃止を掲げているようだ。

「消費税引き下げ」、「消費税廃止」と聞くとなんと嬉しく感じていた私であったが、今回調べた消費税が引き上がった理由、社会保障制度のことなどを知った今、それらを行うことによって新たな問題や負担が生まれてしまうのではないかと考えるようになった。実際、私は今税金に支えられながら生きている。

ケガをした時、病気になった時も税金のおかげで自己負担額が全体の三割ですむ。私だけでなく、日本全国の人々が

税金に支えられながら生きていると思う。いくつかの政党を批判しているわけではないが、私は消費税引き下げ、廃止はあまり良くないのではと考える。

このような考えが出たのも、消費税や今の政治に疑問や関心を抱いたからである。これから、私たち将来世代が社会の一員として日本を引っぱっていく立場になる。その中で税や政治というのは重要なものになっていくと思う。これら二つにしっかりと関心を持って、自分なりの考えを持ち、これからを過ごしていきたい。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 坂田 楓夏

「増税の理由」

最近、増税や減税という言葉やテレビやインターネットなどで耳にしたり、目にしたりすることが多くなったように感じる。増税したことに対して不満や不安を持っている人が多い印象が大きく、テレビやインターネットにも不満や不安が大きく取り上げられていることが多い。しかし増税された税金がどんなことに使われているかはあまり広まっていないように感じた。そこで私は最近増税された税金は何のために使われているのか調べてみることにした。まず増税される理由は国などが行う施策の財源確保のためだ。防衛費増額のため、二〇二四年頃から、法人税やたばこ税の増税が実施されている。この防衛費というの

は、装備品の購入費や自衛隊の人員費など防衛省が管理している予算である。防衛費増額、つまり増税の理由は、防衛力の根本的強化を進めるためであり、背景には日本を取り巻く安全保障の問題がある。例えば二〇二二年二月から続くロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮による相次ぐミサイル発射などだ。つまり私達の平和な生活を守ってくれている自衛隊を強くするということなのだ。増額された防衛費の具体的な使い道は「スタンド・オフ防衛能力」と呼ばれる敵の射程圏外から攻撃できる「スタンド・オフ・ミサイル」の早期整備や指揮統制・情報関連機能にAIを使用し意思決定を支援するという研究などである。やはり私達を

守るための装備品の購入や最新技術の導入などに使われていた。しかしこの増税には反対意見も多くある。例えば財政負担の増大や医療、年金、教育といった他の重要な社会保障分野への影響などである。防衛費を増額することにより財政が圧迫され、他の分野への出費がお疎かになるのではという意見のようだ。それに対し政府は増税を「最終手段」として位置付けることや時期調整と配慮をする考え

を示し返答している。このことを調べてみて私は、増税という言葉を聞いた事はあってもこんなに詳しく調べてみたことはなかったためとても勉強になったと思う。また単に増税しているわけではなく私達のこれからの生活やもつと先の未来までも見すえていることが分かった。だから、これから増税や税について気になることがあればどんどん調べていきたいと思った。

★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 佐藤 菜七美

「教育と税金—未来への投資—」

私たちが毎日通っている学校。その建物、使っている教科書や机、図書室の本、部活動の道具など、当たり前のようにあるものの多くが、実は税金によって支えられている。今まで私は、税金と教育

がこれほど深く結びついているとは知らなかった。義務教育だけではなく、高校教育にも税金は使われている。例えば、私に通っている県立高校では、授業料が実質無償化されており、教科書代

も補助されている。学校の施設や備品の整備、部活動の指導や遠征補助などにも、税金が投入されていることを知った時「教育は社会全体で支えられるものなのだ」と実感した。

教育は個人の将来を切り開く鍵であると同時に、社会の未来を形作る基盤でもある。すべての人が経済的な事情に関係なく、平等に学ぶ機会を持つことは、非常に重要だ。もし、税金による支援がなければ、教育の質や受けられる機会に大きな格差が生まれ、不公平な社会になってしまうだろう。教育にかかる費用を

社会全体で支え合うという考え方は、まさに「未来への投資」と言える。しかし、教育に使われる税金が無限にあるわけではない。少子化や高齢化が進む中で、税収も限られており、どう使うかはますます重要な課題になる。教育の中でも、どの分野に重点的に投資するか。ICT教育、外国語教育、特別支援教育など、

ニーズも多様化している。私たち自身が「どんな教育を社会として支えるべきか」を考へることも、今後必要になってくると感じる。また、教育を受ける立場にいる私たちにも責任がある。社会全体の支えによって学ぶことができているという事実を忘れずに、「学ぶことの意味」を意識しなければならぬ。誰かが納めた税金によって支えられているからこそ、その期待に応えられるような学び方、社会への還元を意識した将来のあり方が求められるのではないだろうか。

私は将来社会に出て働き、自分が税金を納める側になったとき、「自分の税が、次の世代の学びを支えている」と思えるような納税者でありたいと思う。そして、税金の使い道に関心をもち、自分の納めた税が社会にどう役立っているのか知る努力を続けていきたい。教育と税。どちらも当たり前

前に存在しているように見えて、その関係を深く理解することは、私たち自身の未来にとって大きな意味を持つ。学

べることに感謝し、その機会を無駄にしないように、これからの高校生活を大切に過ごしていきたい。

## 中学生の優秀作文

★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

筑前町立 夜須中学校

三年 福村 天水珠

### 「点滴」

人が人として在るために必要とされるものとは何だろうか。それは、食べ物だったり、安全にいられるような環境だったり、健全な肉体だったりする。衣食住の三つの要素があれば、ある程度生きていける。では、なぜ食べ物を食べる事ができるのか。住む家や建物があるのか。健全な肉体を保っていられたら、風邪をひいたら病院に行くことができるのか。それは、私達の生活を支える「税金」がある

からに他ならない。よく、「税金なんか必要ない」という言葉を耳にする。私も、前は同じ考えをもっていたが、税金について知ってみると、それは間違った考え方だということとが痛いほどよく分かる。もしも、税金のない世界に変わってしまったらどうなるか。簡単な話、人が安心して暮らしていくことができなくなるのだ。例えば、火事が起きてても事故が起きてても、救急車も警察も呼べない。正確に

は、お金が足りず、呼ぶことができない。今までは税金によってまかなわれていたものが、税金がなくなることで、一度に多くの金額をふりこまなければならなくなり、普通の家庭にそれは難しいからだ。このように、私達は様々な場面で税金に助けられ、税金と共に生きていることがよく分かる。税金とは、私が、貴方が、今日も生きている、生きていられる、最大にして最強の理由なのだろう。

私には、税金によって、命が救われた経験がある。三歳のとき、私は病弱で、病院の真っ白な天井は見なれた光景だった。入院しては退院し、退院しては入院し、が三歳の自分の、主な日常だった。もう何度目か分からない退院から、三週間ほど経った頃。久しぶりに家族みんなで出かけることになった。しかし、その出かけた先で私は突然倒れた。その後のことを、私はよく覚えていないが、救急車で

運ばれ、長時間生死の境をさま迷っていたらしい。しかしその後、私は奇跡的に回復し、今となっては、風邪もあまり引くことがなくなり、どちらかと言えば健康体だと言えるような体になった。一見すると税金と全く関係のない出来事だが、税金によって今の私がいる、という事実に気付いただろうか。あと一歩でもおそれれば、私は生きていなかったかもしれない。そうでなくとも、健康体でいられたかったかもしれない。そのことを知って初めて私は、税金のありがたさを痛感した。私が生きていられるのは税金があるからだ、心の底から、そう思った。私だけではない。私の家族や友人、身近な人、それら全て。そして、貴方も、税金という存在に助けられ、生きていける。

様々なことが起こる時代の中で、事件も事故も、当たり前のように起きる。けれど税金が、私達が生きていられる

最大にして最強の理由であることを忘れてはならない。「税金」。それはまるで、点滴の

ように人を生かし、救うものなのだろう。

★甘木税務署長賞

筑前町立 夜須中学校  
三年 北島 まりい

「笑顔を増やすために」

私は五歳のとき、「成長ホルモン分泌不全性低身長症」と診断

ら治療をすることができると言われました。税金がなければ一本七万五千円かかる注射器も、税金があるおかげで自己負担は三割でよくなりました。ということを知りました。それと同時に、今まで当たり前のように治療をしてきたけれど、それは国からの支援のおかげでできていたということを実感しました。税金があるおかげで私の病気の治療をすることもでき、私以外の重い病気にかかっている人の治療もできているのだと思います。他にも義務教育、ごみ収集車、警察署、消防署、道路や交通機関の整備など、税

ン分泌不全性低身長症」と診断された当時から毎晩注射を打ち続けています。ある日、私はお母さんと一緒に注射を受けとりに行きました。二十本も注射器をもらっているのに支払いの時に少ししかお金を払っていないのを見て疑問に思いました。するとお母さんに、

「この注射は国の税金が支払ってくれているんだよ。税金を国に納めてくれている人がいるか

金は私たちが安心、安全そして健康に過ごすために欠かせないものです。私も今まで買い物をする時に消費税を払ってきましたが、「高いな」「税金は何のために払うのかな」といつも思ってきました。しかし、私の治療ができてきているのは税金があるからだと知っては、「国の誰かの役に立つように」と思っています。

私以外にも病気で苦しんでいる人はたくさんいます。私が今まで国民が払ってくれた税金に

★福岡県久留米県税事務所長賞

朝倉市立 南陵中学校  
三年 柴田 篤

「僕が成長できた場所は税金で守られている」

僕が今までで一番成長できた場所は、テニスコートだ。中学生になり、部活動としてソフトテニスを始めて二年半が経った。この二年半、学校のコートでは数えられない程のボールを打って、たくさん走って、仲間

助けられたように、今度は私が苦しんでいる誰かを助けられるようにしたいです。直接治してあげることができないけれど、治療のために使う薬のお金を税金で補うことはできます。私は今笑顔で過ごすことができます。少しは税金のおかげです。少しでも多くの人に笑顔になつてもいいように、これからも税金の制度は必要だと思います。今まで税金に助けられたことに感謝しながら過ごしていきたいです。

と切磋琢磨しながら自分の弱さと向き合った。大会で何度も自転車を漕いで向かった甘木テニスコートでは、何度も何度も仲間と協力し、戦って、それでも勝てなかったときも多く、何度も涙を流し、そのたびにもっと

練習をがんばろうと思わせてくれたときもいつもそこにテニスコートがあった。今思えば僕をここまで成長させてくれたのはテニスコートのおかげだと思う。ある日、テニスコートの運営や管理などは税金で支えられていることを知った。そこから僕は税金について興味をもつようになった。どんなことに税金が使われているのか調べてみると、学校や教育、医療や福祉、道路インフラなど、多くのことに使われていて驚いた。学校、教育の面では僕は教科書の無償化は知っていたが、机やイス、冷暖房校舎にも税金が使われていることを知り驚いた。医療、福祉の面では、救急車が税金で無料で使えることは知っていたが、病院や診療所の建設、運営にまで税金が使われていることを知り、さらに安心した。道路、インフラの面では道路や橋、トンネルの建設や修理、信号機や街灯、公共交通の一部支援など僕の知らないことがとても多くて一番勉強になった。このようにテニ



スコートだけでなくこんな多くのものに税金が使われていることが分かった。調べてみて僕は、学校や病院、公共交通を利用したときは不自由なく利用できていたなと感じた。このように税金は僕たちの生活の中で不自由なく暮らせるように使われていることが分かった。これから僕は、テニスコートなどをただ使うだけじゃなく「ありがとう」の気持ちを持って使ってきたい。また今までは、税金に支えてもらう立場だったけれど、これからは、誰かを支える側になりたい。そして、自分が大人になったときにそんな社会をつくる一人になっていたいと思う。

★甘木税務署長賞

東峰村立 東峰学園  
九年 坂本 綾香

「私たちの暮らしと税金」

私の夏休みは、いつもの夏とは違う、とても大切な発見をした。それは、私たちが普段意識しない「税金」が、いかに私たちの村の暮らし、特に災害からの復興や日々の安全に深く関わっているかということだ。

ある日私は、BRTで日田に行くために駅の方へ自転車を走らせていた。私の住んでいる東峰村は、二〇一七年に豪雨災害が発生し、追い打ちをかけるように二〇二三年も被災した。近所ではダンプが通り、土を運び、道のあちこちで舗装工事が行われ、大きな重機が忙しく動き、作業員のおじさん達が真夏の強い日差しの中で汗を流しながら働いている。私はふと道路も砂防ダムもどこからのお金で作

られたのかと思った。そして、この前の租税教室の話を思い出した。もしかしたらと思い「税金」についてもっと調べることにした。

「税金」とは、私たちが豊かに安心した暮らしができるように公共サービスを行うために必要な費用のことだ。国の支出の令和七年度一般会計予算は、約百十五兆五千億円だそう。このうち、歳出について見ると、社会保障がトップで全体の約三分の一を占めている。社会保障とは、私たちが安心して生活する上で必要な公的サービスのことで、医療や介護、福祉、そして年金などの仕組みのことだ。今、日本は少子高齢化が進んでおり、この問題の一つは、社会保障の費用が増えていくこと

であり、もう一つは、その費用を負担する働き手が減っていくことだ。全国納税貯蓄組合連合会・一般財団法人大蔵財務協会のチラシによると、二十歳〜六十四歳人口の六十五歳以上の人口に対する比率が、二〇〇〇年は三・六人だったのが、二〇二五年には一・八人、二〇五〇年には一・三人となるそうだ。要するに一人の高齢者を支えるための納税者の負担が多くなるということだ。私はこんな世の中になってしまうと、私たちの未来は税金が足りず苦しい思いをするかもしれない。そう考えると、余計に税金の大切さがわかった。私たちが当たり前のように公園で遊んだり公民館の本が無料で借りられたりできるのも税金のおかげだと知った。私があの日災害から立ち直れたのも税金のおかげだと思った。

今回の夏休みで、私は税金がただ「大人たちが払うもの」とか「難しい話」ではなく、私たち東峰村の毎日の暮らしに密接につながっていることを強く感じた。病気になるたら病院に行けるのも、教育が受けられるのも、火事や事件が起きた時に消防車やパトカーがすぐ来てくれることも決して当たり前ではない。私はまだ中学生で税金を直接払うことは少ない。だが、将来大人になって働くようになったら、税金を納めることになる。その時のために、自分が納める税金が社会にどう使われているのか、役立っているか、興味を持ち、そして自分にできることを考えたい。「税金」は、過去から今、そして未来へと続く皆との「つながり」そのものだから。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立 比良松中学校  
二年 西川 優佑

「税金を支える暮らし」

僕が、税金という言葉をきいて最初に思いうかべるのは学校です。なぜなら、僕は、平日はいつも学校に通っていて、教科書なども無償化されていることを学んだからです。学校の中には、教室だけでなく、体育館や図書室などいろいろな部屋があり、たくさん活動ができます。税金の使われ方について、もっと知りたいと思います。税金の中でも、使われている割合が大きい二つについて調べました。一つめは、社会保障です。社会保障は国の支出の約三十三パーセントを占めており、子どもから子育て世代、お年寄りまで全ての人々の生活を生涯にわたって支えるものです。例えば、生活が苦しい時に、最低限の生活を保障してくれた僕が、税金という言葉聞き取って、高年齢になったときに受け取る年金になったりします。二つめは、地方交付税交付金です。地方交付税交付金は、国の支出の約十六パーセントを占めていて、地方自治体が安定した行政サービスを提供し、地域間の経済格差をなくすために使われます。この税のおかげで、都市部とそれ以外の地方の財源力の差をうめて、住んでいる場所に関わらず、すべての人が一定水準の公平サービスを受けられるようになっていきます。ここまで調べた中で、僕が一番興味を持ったのは、図書館でした。なぜなら、図書館は今までたくさん利用してきているからです。小さな頃は、お母さんに読みかかせしてもらったために、本を借りに行った

り、なぞなぞの本を読みに行ったりして、たくさんお世話になっていました。小学生になっても、自分が知りたいと思った教科の本などを借りていました。中でも一番覚えていたのが、大雨がふった時のことです。その日は豪雨がとでもひどかったので、図書館のある生涯学習センターで避難することになりました。小学生低学年の頃で、いつもと違う場所で過ごしたり、寝たりしてとても不安な気持ちでいっぱいでした。そんな時、いつもしてもらっていた読みきかせや、本を見ながら折り紙をおったりして、少し気持ちを安心させることができました。いつもと環境が違い、混乱している中、落ちついて生活できるようにしてくれたのが公共施設でした。そして、この公共施設は、税金によって支えられています。もし、図書館が利用できなかつたら、幼い自分は、眠れなかつたりしたかもしれません。こ

このことから、僕は、日本を支える税金の仕組みは、とても大切だと思いました。税の作文を書くことを通して、僕は税金がどのようなところで役立つているのかを改めて考えることができました。僕たちの生活を支えるために、見えないところでも税金が使われていることを知りました。これから、社会の授業などでももっと勉強してみたいと思います。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

朝倉市立 比良松中学校  
二年 原田 純志

「自動販売機と税金」

みなさんは、自動販売機でジュースを買ったことはありませんか？ぼくはあまり使わないけどのがかわれてどうしようもない時には自動販売機でジュースを買います。ポタンを押すだけですぐに冷たい飲み物がでてくるのでとても便利でぼくたちの生活に必要なものになっています。しかし、ぼくは自動販売機で水を買っている時にふと思いました。「自動販売機で買うときって、消費税はかかっているのかな？」と疑問に思いました。コンビニやスーパーで買うときはレシートに「消費税は何円」と書いてあるから分かるけど自動販売機ではレシートが出ないから、税金を払っているか分からなかつたです。だから調べてみると、自動販売機の値

段にはしっかり消費税がふくまれていることが分かりました。たとえば百六十円のジュースを買ったとします。そのうち約十五円は消費税です。つまりぼくは、気づかないうちに税金を納めているのです。ではその税金はどのように使われているのでしょうか。テレビなどでは「税金のむだづかい」といったニュースを見たことがあります。しかし私たちの日常生活を支えているのも税金です。ぼくの学校にエアコンが設置されているのも教科書がむしようでくばられているのも道路や公園が整備されているのも、すべて税金があるから実現できるらしいです。そう考えたら税金も必要なのかな？と少し思うようになってきました。税金は「みんなですしずつ出し合

い、社会全体を支えている仕組み」です。ぼくひとり納める税金の額は小さくても、全国の人々が力を合わせることで大きな額になります。それはぼくもやっている部活動といっしよ部活動の練習も、ひとりだけではくじけそうになつたりする時もあるけど全員が協力することでもんな強くなります。それと同じように税金もみんな分担するからこそ、社会を守ることができるとは思います。これから何年か後にはぼくたちも大人になり、働くようになったら本格的に税金

を納めないといけない立場になつてきます。そのとき、「なぜ税金を納めないといけないのか」を理解することが大切だと感じました。税はただとられているだけのものではなく、未来の社会をつくるための「支払いの証」だからです。自動販売機でなにげなく買った一本のジュースからぼくは税金の大切さにきづくことができました。これからも、身近なくらしの中にある税金の存在を意識しながら、社会を支える一員としての自覚をもつていきたいです。

★朝倉市長賞

朝倉市立 甘木中学校  
三年 平塚 小夜子

「命を支える税金。」

私はこれまで税金についてあまり意識がありませんでした。けれど、看護師として働く母から、話を聞いたりして医療と税金の関係について興味

を持ちました。母はよく病院での出来事を話してくれます。最近では救急車で運ばれてくる人は誰でも治療を受けられると話してくれました。私は当

り前ではないかと思つていましたが、母は日本が税金で医療を支えているからだを教えてくれました。その言葉が気になり、私は調べてみると医療にはたくさん税金が関わつていました。特に気になつたのが皆保険制度です。これは、すべての人が保険に入つてしているわけではなく、足りない分は国や自治体が税金で補っていることです。特に高齢者の医療費の多くは税金によって支えられていて、もしその税金がなかったら十分な治療が受けられない人がたくさん出てしまうかもしれません。また、救急車を呼んでもお金がかからないのも税金のおかげです。救急隊が出動し、患者を運び、病院で治療が始まるまでのすべてに税金が使われていると知り、税金ってこんなにたくさん人の命を支えているんだと感じました。私が小学生の頃、コロナウイルスが流行した時期は病院には多くの患者が押し寄せ、医療現場は大変だったと思

います。感染防止のためのマスクやワクチン、検査などにかかるお金も、ほとんどが税金でまかなわれていると知りました。仮に、税金がなかったら必要な道具もそろいませんし、母たち医療従事者も危険な中で働くことになつていたかもしれせん。税金は、私たちの生活を便利にしているだけでなく、命を守るためにも使われていると実感しました。私はこれまで、税金は取られるものというイメージがありました。今はみんな支え合う仕組みだと考えるようになりました。将来、私が大人になったとき、税金を納める立場になります。そのときに誰かの命を支えるお金になるんだと思えば、責任を持つて社会と関わつていけると思えます。税金は、私たち一人ひとりの安心と未来を支える大切な土台なのだと思います。税金のおかげで守られていることに感謝しながら社会の一員として成長していきたいです。

★筑前町長賞

筑前町立 三輪中学校  
三年 坂本 寿仁

「税金の大切さについて」

みなさんは「税金」と聞いて、どんなことを思い浮かべるでしょうか。私は、もともと税金に対してあまり深く考えたことがありませんでした。ただ「大人が払うお金」くらいのイメージしか持っていなかったのです。しかし、社会科の授業や調べ学習を通して、税金が私たちの生活にとつととても大切なものであることを知り、考え方が大きく変わりました。

ある日、学校で「税金の仕組み」について学ぶ授業がありました。先生は、道路や学校、病院、消防や警察など、私たちのまわりのさまざまなものに税金によって支えられていることを教えてくれました。私はそれを聞いて驚きました。毎日通っている学校の建物も、教科書も、先生の給料も、すべて

税金が使われているということを知り、税金が役立っていることを知り、税金は自分たちのためだけでなく、社会全体の支えになつているのだと感じました。

それ以来、私は身の回りのことに少しずつ注意を向けるようになりました。たとえば、学校のトイレがきれいに使われているか、図書室の本が丁寧に扱われているかなどです。税金で作られたものは、自分たちのものでもあるけれど、みんな

のものでもあります。だからこそ、大切に使う責任があると思うようになりました。

また、税金にはいろいろな種類があることも知りました。消費税、所得税、贈与税など、それぞれに役割があります。特に消費税は、私たち中学生でも買い物のときに関係して、身近な税です。消費税が上がるのと買い物の金額も変わって、生活にも影響があります。だからこそ、税金について学ぶことは、将来だけでなく、今の私たちにとつても大切なことだと感じました。

これから私は、税金について、もつと知識を深めていきたいと思えます。将来、大人になって働くようになったときには、自分も税金を払う立場になります。そのとき、ただ「高い」とか「もったいない」と思うのではなく、「社会のために役立てられているお金」として前向きに考えられるようになっていきたいです。

★東峰村長賞

東峰村立 東峰学園  
九年 植田 舞

「必要な税」

私の日課は、毎朝五時に散歩をすることだ。ルートは決まっている。公園や国道、介護施設も通る。たまに自販機で

水を買う。朝一の音楽だ。

ある税の講演会で、税が無 い場合の社会を聞いた。その内容は、絶句するようなもの

だった。一つ目は、有料で道を通らなければならぬことだ。毎日歩いたり、自転車に通学する私には苦しいことだと思ふ。二つ目は、海や森林がきれいでないことだ。私が住んでいる地域は「自然」が見所だ。それが無くなると訪れる人はいなくなるだろう。三つ目は公共サービスや公共施設が機能しなくなることだ。私たちの身近な学校や病院、道などは全て個人で負担しなくてはならない。「負のサイクル」に陥ってしまうだろう。そして四つ目が、世界が汚れるということだ。これがきれいな私にとって、一番苦いことになる。ゴミがたまり、道はガタガタ、自販機も動かない。地域中が臭い匂いに包まれて、公害が出る可能性もある。この講演会の後、税の必要性を考えた。日本の税はたしかに重い。二〇二四年の税収ランキングのデータでは、世界四位だ。でもその分税金で賄われている物も多い。それが、今回挙げた四つだ。この四

つは、私の毎日の日課に欠かせないこと揃いでもある。家に帰って親に聞いてみた。「ねえ。税って払いたくないの?」  
「嫌でしょ。何万引かれてるんだよ。」  
と、キレ気味で話された。そんなに嫌なものなのかともう少し調べてみた。  
大人になると所得税や住民税など、五つ子供より多い税を払う必要がある。これらは、収入から引かれるものが多く、手取りが減ってしまう。これだけ考えれば確かに無くなった方が楽と考えてしまう。しかし、税金の仕組みを思い出してほしい。国民が税を払い、集まった金で様々な国民のために行動をしてくれる。いわば募金なのだ。そして自分がしたことはいつか自分に返ってくるという言葉があるように、目に見えるルートをとどって返ってくるのだ。少し手取りが減ったとしても、大きなものとして返ってくるなら大歓迎という気持ちに

なるのも有りだと思つた。使つても自由で平等だ。明日の私たちが使うものは税金のおかげで自由に使っている。道を歩いても、公共サービスを

使つても自由で平等だ。明日の朝にタイマーをセットし、晴れた気持ちで私は眠つた。

## 税の標語

全国間税会総連合会 入選

税の花 ひらく社会に 笑顔咲く

筑前町立 三輪中学校 二年 佐伯 彩羽

税金を 学んで気づく 大切さ

朝倉市立 十文字中学校 二年 深町 大智

今日も 誰かの税に ありがとう

朝倉市立 比良松中学校 一年 田中 結乃

感謝して すべての税に ありがとう

朝倉市立 甘木中学校 二年 大内田 瑠菜

明るい未来は 正しい知識と 納税から

朝倉市立 十文字中学校 一年 弘中 稟都

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です  
本年度は管内中学校9校から2,814点の応募がありました。

# 租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



中学生の作文表彰



高校生の作文表彰



学童保育所租税教室



小学校租税教室

甘木朝倉地区  
税務連絡協議会とは？

★構成団体は？

- ・ 公益社団法人  
甘木朝倉法人会
- ・ 朝倉地区  
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内  
酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会  
甘木支部

★何をしている団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。